

本学の「『帝塚山プラットフォーム』の構築による学際的『奈良学』研究の推進」が 文部科学省「平成29年度 私立大学研究ブランディング事業」に採択されました

本学の「『帝塚山プラットフォーム』の構築による学際的『奈良学』研究の推進」が、文部科学省の「平成29年度 私立大学研究ブランディング事業（タイプA【社会展開型】）」に採択されました。

タイプAは、地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与する研究：特定の地域あるいは分野における、地域の資源活用、産業の振興・観光資源の発掘・文化の発展への寄与、企業や雇用の創出等を目的とするもので、全国の123の私立大学・短期大学等が申請し、本学を含め、33件が採択されました。近畿地区では、37件の申請に対し、9件が採択されました。

本事業は、奈良県全体を研究のフィールドとする本学独自の「奈良まるごとキャンパス®」構想にもとづき「帝塚山プラットフォーム」を構築して学際的な「奈良学」研究を推進することで、奈良に存在する様々な

文化資産や観光資源を再発見し、地域と協働でその成果を広く社会に発信して、地域の活性化と創生に結び付けることを目的としています。

本事業で推進する「奈良学」は、帝塚山短期大学（平成12年度に本学組織に組み入れ）の名誉教授・故 青山茂氏が1980年代に提唱したもので、奈良を対象とした単なる「郷土史」や従来の「日本古代史」ではなく、巨視的な「鳥の目」で全体を俯瞰し、日本の歴史文化における奈良の位置づけを考えたときに、微視的な「蟻の目」で人々を洞察し、奈良を通して日本全体の歴史文化を考察するというものです。

本学は、「奈良学」を通じて、奈良独自の地域性を明らかにするとともに、多方面にわたる学際的な研究を展開します。この研究成果は、本学ホームページやシンポジウム等を通して地域に情報発信していきます。

